

『威信財からみた後・終末期古墳の様相—相模・南武蔵を中心として—』

松 崎 元 樹（公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター）

はじめに

相模および南武蔵地域には、古墳時代後期から終末期にかけて、横穴式石室を主体部とする古墳と横穴墓が混在するかたちで構築された。これらは、一定の範囲に群集する傾向がみられ、とくに横穴墓は数基から数十基が密集するように掘削されていることから、強固な紐帯を有する氏族的集団の墓域と考えられてきた。

これら古墳や横穴墓には、しばしば、金・銀装大刀や金銅装馬具や銅鉤・銅鏡など、いわゆる畿内系文物が副葬される例がみとめられる。場合によっては、首長墓クラスの前方向後円墳に副葬されるような豪華な器物である威信財が検出される例もある。それでは、こうした威信財が受容される背景には何があり、また、どのような意味があったのか、この地域の古墳時代後・終末期の古墳の様相から探ってみたい。

I 古墳時代後期～終末期の相模・南武蔵の様相

文献に拠れば、古代相模には酒匂川流域の師長国造と相模川流域の相武国造が存在したとされる。それを物語るように、各流域には多くの古墳や横穴墓群が分布する。相模川水系では、真土大塚山古墳や秋葉山古墳群など古墳時代前期から有力な古墳が築造されているが、後期～終末期にかけて、花水川流域の伊勢原市三ノ宮地域を中心に金銅装大刀や馬具などを副葬する古墳や横穴墓が数多く認められ、その密集性からまさに、相武の中核的古墳群として位置づけられている。さらに、近年、発見された長柄桜山1・2号墳は国造領域外の鎌倉・御浦での前方向後円墳の出現を明らかにし、この地域の後期以降の古墳文化の展開を考えるうえで重要な意味を有している。

いっぽう、南武蔵では前期に鶴見川流域や多摩川流域に前方向後円墳が出現し、加瀬白山古墳や観音松古墳をはじめ、宝来山古墳、亀甲山古墳などの大型古墳が相次ぎ築造される。後期以降も、両流域では石室墳と横穴墓群が混在する形で形成されるが、とくに、旧多磨郡の領域には、特徴的な武蔵型胴張り形石室が構築され地域首長墓的なあり方を示し、ある種のステータスの表象として拡散する。

II 威信財の諸相

(1) 装飾付大刀

相模では環頭、圭頭、円頭大刀等が出土している。竜鳳文の環頭大刀は黄金塚古墳、栗原古墳、

御領原 2 号墳、塚田 2 号墳、川名新林西2号横穴墓から検出され、6 世紀中葉から7世紀前半代に生産された畿内系文物である。酒匂川流域で2例、花水川流域の三ノ宮で2例出土している。型式学的見地から単竜環頭のうち、栗原古墳例は新納Ⅳ式、黄金塚古墳例はⅢ式、単鳳環頭大刀では塚田 2 号墳例、川名新林例がⅤ～Ⅵ式に比定される。環頭の系列では後者は鳳の角が環に結合するタイプで穴沢・馬目分類の龍王山系列に属する。圭頭大刀は酒匂川流域の久野2号墳、唐沢8号墓、三ノ宮地域の登尾山古墳、金目川流域の前方後円墳の二子塚古墳等足下郡および大住郡域から多く出土している。また、円頭大刀は諏訪脇124号墓、比奈窪15号墓、御浦の江奈2号墓などの横穴墓からの出土が目立ち、多く象嵌を伴う。

南武蔵では環頭大刀は確認されておらず、その代わりに頭椎大刀が横浜市域の戸部町、赤田横穴墓群、多摩川下流域の塚越14号墓などから検出され、いずれも横穴墓からの出土である。円頭大刀は橘樹郡域の間際根横穴墓群や久本3号墓をはじめ、荏原郡域の久ヶ原48号墓、多摩川台8号墳、多磨郡域の岡本町1号墓、殿山3号墓から検出されている。圭頭大刀は多磨郡域に多くみられ、喜多見稻荷塚古墳例は覆輪を伴うもので優品である。府中市熊野神社古墳例は鞘尻のみであるが、覆輪に七星文など象嵌を施すもので、きわめて高度な技術で製作されており、近隣の高倉古墳群や御嶽塚古墳群における象嵌装や圭頭大刀の保有も重視される。

(2) 馬具

相模では、三ノ宮の埴免古墳や登尾山古墳出土の金銅装馬具が注目される。前者には鞍金具や棘葉形杏葉の範疇に属する特異な馬具が副葬され、TK209期に比定される。後者からは心葉形鏡板付轡と杏葉、雲珠をセットとする金銅馬具が出土し、残欠ながら鍔金具や鞍金具を伴うもので、この地域の優位性と畿内勢力との関係性が窺える。終末期には、同地域の下尾崎1号墓や上栗原5号墓などの横穴墓からも、鉄製壺鍔や轡が副葬されており、継続的に畿内系文物の受容がみられる。また、終末期群集墳の桜土手古墳群中の38号墳において、環状鏡板付轡や鍔金具、辻金具のセットが副葬されているが、群中唯一の保有でありかつ、形成初期の古墳であることから群集墳内での副葬品階層が窺える。

南武蔵では金銅装馬具の類例は限られており、セットとして認識されるのは久良郡域の室ノ木古墳と荏原郡域の池上堤方権現台古墳である。前者は、鐘形鏡板、心葉形杏葉、楕円形杏葉等を主体とする3組の馬具で、特異な石室形態とともに注目される資料で TK209期頃に比定できる。後者は近年発見された資料で楕円形鏡板付轡と剣菱形杏葉をセットとする金銅装馬具で、概ね6世紀前葉頃である。鉄製馬具は多摩川台古墳群周辺で検出されるが、頭椎大刀を伴う塚越14号横穴墓に轡が伴うことは重要であり、被葬者の性格を雄弁に物語る。

(3) 銅鏡他

銅鏡を副葬する例としては、相模では総世寺裏古墳、登尾山古墳、岩井戸横穴墓群、鳥ヶ崎横

穴墓等が挙げられ、やはり装飾付大刀と同じような分布状況を示す。銅鏡は登尾山古墳をはじめ下田 6 号横穴墓や鳥ヶ崎横穴墓からも検出されている。東京湾に面する三浦半島の突端からは、銀装の弓弭が江奈 2 号横穴墓やかろうと山古墳から出土しており、対岸の上総内裏塚古墳群の終末期古墳との共通性を有する。南武蔵の領域では、津田山浄元寺裏 1 号・日向 3 号横穴墓や多磨の大和田 1 号横穴墓など流域の新興勢力に受容される傾向があり、銅鏡も威信財としての機能を有すると推定される。

Ⅲ 威信財の分析・検討

相模および南武蔵における威信財受容の時期については、概ね3期に区分される。Ⅰ期は、6世紀中葉～後半段階で足柄や三ノ宮地域に加え、相模湾東部において、環頭大刀の副葬が見られる。この時期、南武蔵においては顕著な分布は認められず、一部に金銅装馬具の受容がある。Ⅱ期は6世紀末～7世紀前葉にかけてで、威信財の受容が飛躍的に増加する。西相模では、前段階に受容された地域に集中的な分布がみられ、とくに、足上、大住郡三ノ宮地域での副葬は顕著である。南武蔵各地でも当期から受容が活発化し、室ノ木古墳や津田山浄元寺裏・間際根横穴墓群、塚越14号横穴墓、喜多見稻荷塚古墳等に装飾馬具や大刀が広く配布される。7世紀中葉以降のⅢ期には、三浦半島での横穴墓被葬者への配布が顕著になり、他の地域ではより収斂された分布状況となる。上記の傾向は、北武蔵や上総においても見られるが、埼玉北部や木更津・富津地域の威信財出土量から、当該集中地域からの二次的配布も考慮される。群集墳の副葬遺物に、ある種の階層性が看取される理由がそこにあるのかもしれない。

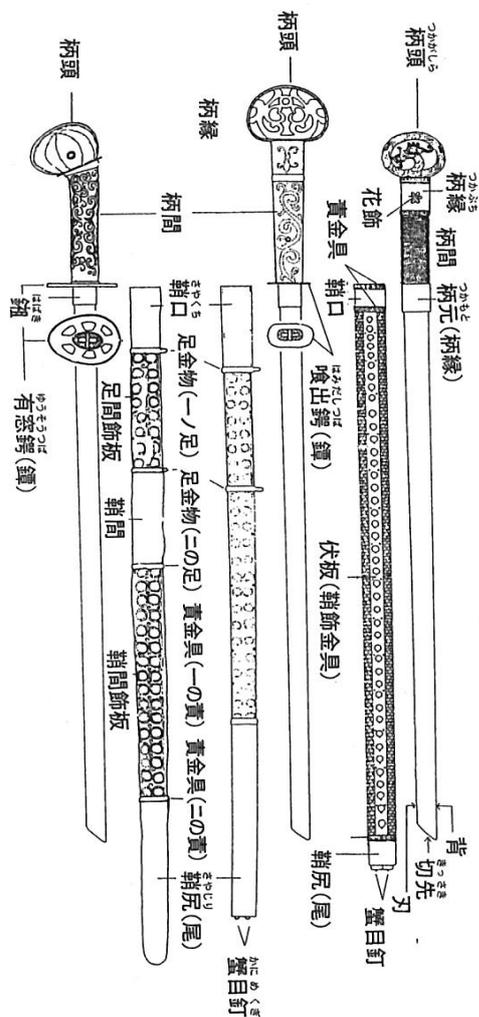
Ⅳ 後・終末期における威信財の役割

私見では、装飾付大刀や馬具などの威信財の存在は、地方豪族と畿内のヤマト王権や中央豪族層との関係性を示すものであり、文物を介した同盟や支配の確認が行われたと見られる。威信財の受容が比較的狭い範囲(律令制の郷程度)に集中する傾向があり、その近辺には、古代寺院や官衙が存在することから、とくに、7世紀代の地域再編や統合に向けた動きと連動する可能性があると考えられる。Ⅱ期に顕著となる威信財の配布が推古朝における地域再編、Ⅲ期後半での収斂傾向は天武朝以後急速に進む中央集権化に伴い、半ば官人化していく地方豪族の姿を反映しているのではないかと。

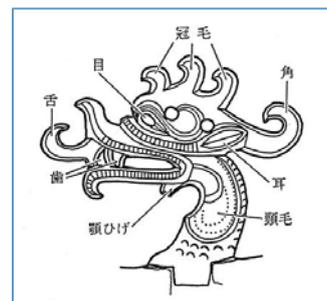
【主な参考文献】

- 穴沢和光・馬目順一他 1979 「相模出土の環頭大刀の諸問題」『神奈川考古』第6号
明石 新他 2001 『相武蔵の古墳—相模川流域の古墳時代—』 平塚市博物館

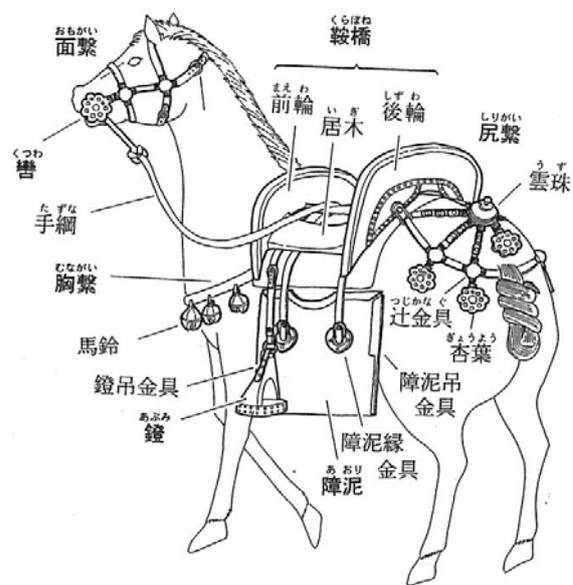
- 大谷晃二他 1996 『黄金に魅せられた倭人たち』 島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
- 小野山 節 1979 「鐘形杏葉裝飾付馬具とその分布」『MUSEUM』339号 東京国立博物館
- 宍戸信吾 2001 「横穴式石室から見た古墳時代の秦野盆地」『研究紀要』第2号 秦野市立桜土手古墳展示館
- 新納 泉 1982 「単竜・単鳳環頭大刀の編年」『史林』65巻4号
- 新納 泉 1983 「裝飾付大刀と古墳時代後期の兵制」『考古学研究』第30巻 第3号
- 柏木善治 2014 『埋葬技法からみた古代死生観—6～8世紀の相模・南武蔵地域を中心に—』 雄山閣出版
- 柏木善治 2012 「相模の後・終末期における古墳・横穴墓の展開」『武蔵・相模の後期古墳—その地域性と交流を
さぐる』平成23年度 東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業公開セミナー
- 須藤智夫 2013 「相模の国造に関する諸問題—相武国造、師長国造などの存在形態を中心に—」『国造制の研究』
- 田尾誠敏 1999 「遺物からみた「相模」の形成」『東海大学校地内遺跡調査団報告9・10』別冊所収
- 拙稿 2007 「後・終末期古墳の威信財」『武蔵と相模の古墳』季刊考古学別冊15 雄山閣出版
- 拙稿 2006 「古墳時代終末期の地域構造—多摩川流域の石室墳および横穴墓の検討—」『考古学論究』11号



裝飾付大刀の名称

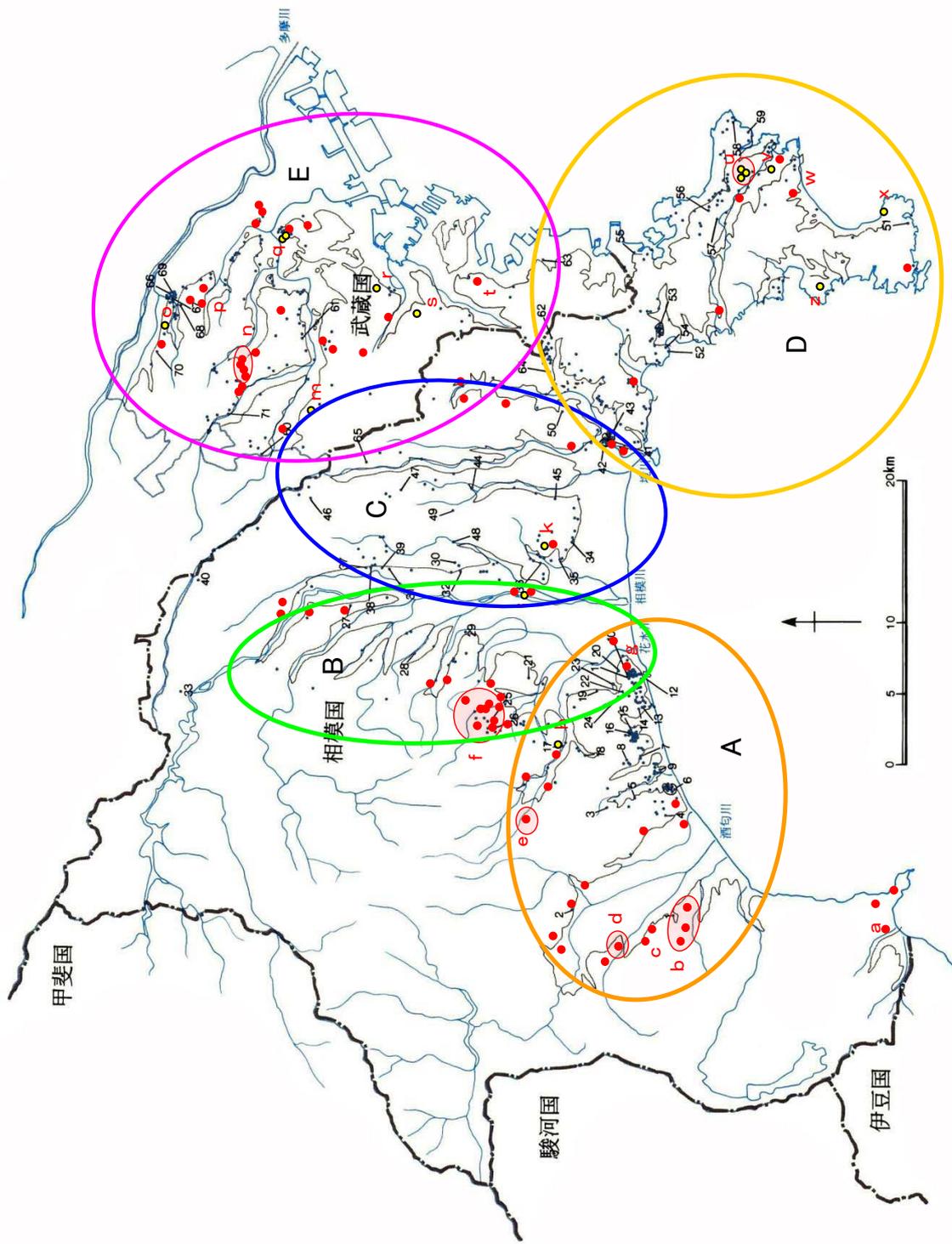


環頭竜文の各部名称(新納 1982より転載)



裝飾付馬具の名称 (左記同様転載)

(島根県立八雲立つ風土記の丘資料館 1996より転載)



※2001 明石を一部改変

a 八雲里古墳 b 久野諏訪の原古墳群 c 黄金塚古墳 d 塚田古墳群 e 桜土手古墳群 f 三ノ宮古墳群 g 釜口古墳 h 二子塚古墳(秦野) i 宮山中里遺跡 k 十二天古墳群 m 三保杉沢古墳 n 赤田古墳群 o 二子塚古墳(川崎) p 馬絹古墳 q 駒岡堂の前・瓢箪山 r 軽井沢古墳 s 瀬戸ヶ谷古墳 t 室の木古墳 u 大塚古墳群 v 蓼原古墳群 w かるうと山古墳 x 雨崎古墳群 z 長井経塚古墳

2 唐沢横穴墓群 7 諏訪脇横穴墓群 13 愛宕山下横穴墓群 17 岩井戸横穴墓群 21 城山横穴墓群 22 万田八重窪横穴墓群 23 万田熊之台横穴墓群 25 三ノ宮・下尾崎横穴墓群 26 三ノ宮・上栗原横穴墓群 31 上今泉横穴墓群 46 浅間神社西側横穴墓群 54 新宿横穴墓群 56 高山横穴墓群 59 鳥ヶ崎横穴墓群 60 熊ヶ谷横穴墓群 66 久地西前田横穴墓群 71 早野横穴墓群

図1 神奈川県の後・終末期古墳、横穴墓の分布 (柏木2012より転載)

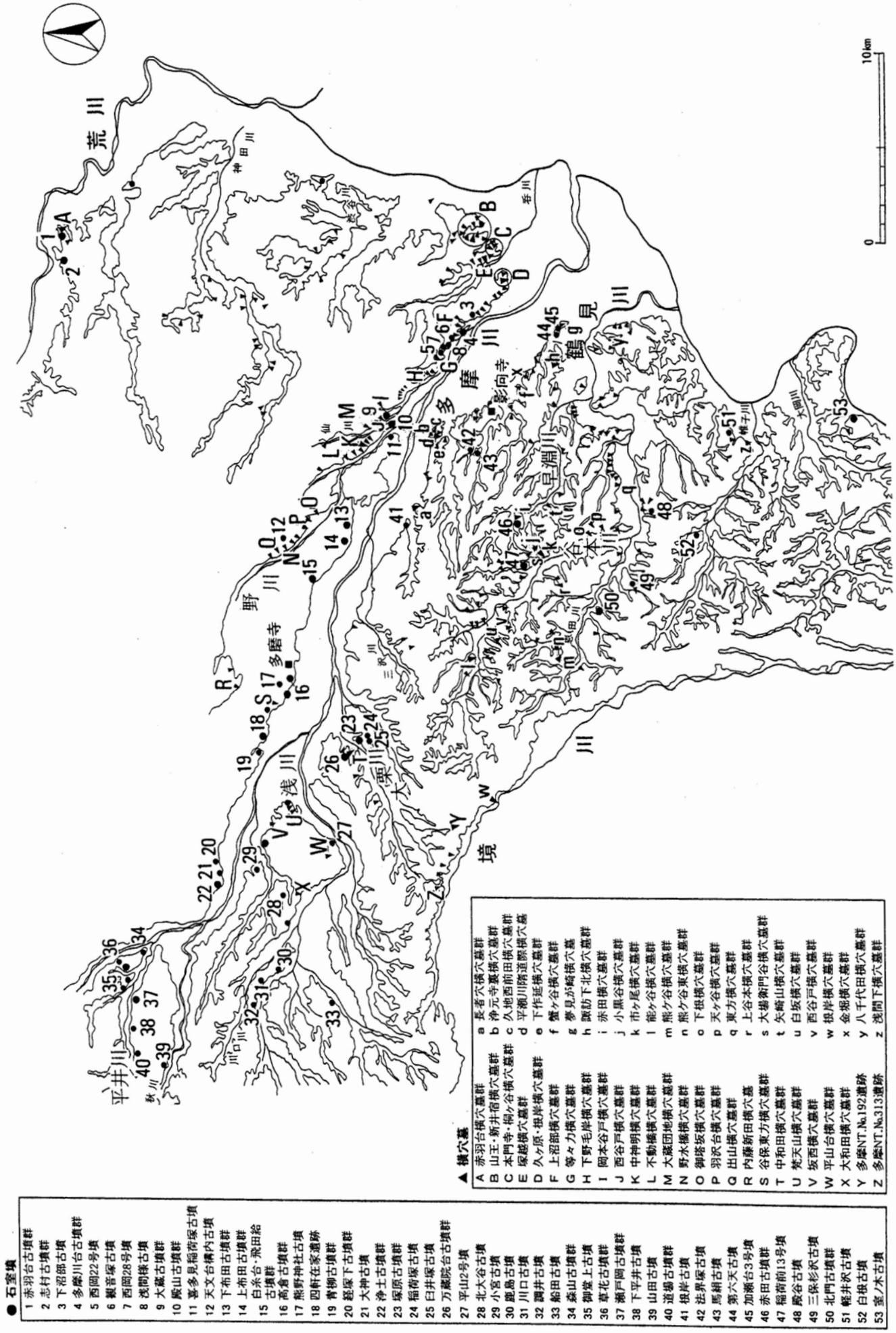


図2 南武蔵における主要な石室墳・横穴墓の分布

- 石室墳
- 1 赤羽古墳群
- 2 志村古墳群
- 3 下沼部古墳
- 4 多摩川台古墳群
- 5 西岡22号墳
- 6 観音塚古墳
- 7 西岡28号墳
- 8 浅間塚古墳
- 9 大蔵古墳群
- 10 蔵山古墳群
- 11 喜多見尾筒荷塚古墳
- 12 天文右橋内古墳
- 13 下布田古墳群
- 14 上布田古墳群
- 15 白承台・飛田給古墳群
- 16 高倉古墳群
- 17 熊野神社古墳
- 18 四軒在家遺跡
- 19 青柳古墳群
- 20 経塚下古墳群
- 21 大神古墳
- 22 浄土古墳群
- 23 塚原古墳群
- 24 福荷塚古墳
- 25 臼井塚古墳
- 26 万蔵院古墳群
- 27 平山2号墳
- 28 北大谷古墳
- 29 小宮古墳
- 30 鹿島古墳
- 31 川口古墳
- 32 調井古墳
- 33 船田古墳
- 34 森山古墳群
- 35 柳堂上古墳
- 36 草花古墳群
- 37 瀬戸岡古墳群
- 38 下平井古墳
- 39 山田古墳
- 40 道場古墳群
- 41 根岸古墳
- 42 社界塚古墳
- 43 馬絹古墳
- 44 第六天古墳
- 45 加瀬古3号墳
- 46 赤田古墳群
- 47 稲荷前13号墳
- 48 蔵谷古墳
- 49 三俣形古墳
- 50 北門古墳群
- 51 龍井古墳
- 52 白根古墳
- 53 室ノ木古墳

- ▲ 横穴墓
- A 赤羽古墳穴墓群
 - B 山王・新井宿横穴墓群
 - C 本門寺・桐ヶ谷横穴墓群
 - D 久々原・根岸横穴墓群
 - E 塚越横穴墓群
 - F 上沼部横穴墓群
 - G 等々力横穴墓群
 - H 下野毛岸横穴墓群
 - I 岡本谷戸横穴墓群
 - J 西谷戸横穴墓群
 - K 中神明横穴墓群
 - L 不動横穴墓群
 - M 大蔵団地横穴墓群
 - N 野水橋横穴墓群
 - O 御塔坂横穴墓群
 - P 羽沢台横穴墓群
 - Q 出山横穴墓群
 - R 内藤新田横穴墓群
 - S 谷保東方横穴墓群
 - T 中和田横穴墓群
 - U 梵天横穴墓群
 - V 西山横穴墓群
 - W 平山台横穴墓群
 - X 大和田横穴墓群
 - Y 多摩NT.No.192遺跡
 - Z 多摩NT.No.313遺跡
- ▲ 墓穴
- a 長者穴横穴墓群
 - b 浄元寺墓横穴墓群
 - c 久地前田横穴墓群
 - d 平瀬川階道跡横穴墓群
 - e 下作延横穴墓群
 - f 鷹ヶ谷横穴墓群
 - g 鷹見が崎横穴墓群
 - h 諏訪下北横穴墓群
 - i 赤田横穴墓群
 - j 小黒谷横穴墓群
 - k 市ヶ尾横穴墓群
 - l 能ヶ谷横穴墓群
 - m 熊ヶ谷東横穴墓群
 - n 熊ヶ谷横穴墓群
 - o 下根横穴墓群
 - p 天ヶ谷横穴墓群
 - q 東方横穴墓群
 - r 上谷本横穴墓群
 - s 大塚新門谷横穴墓群
 - t 矢崎山横穴墓群
 - u 白坂横穴墓群
 - v 西谷戸横穴墓群
 - w 根岸横穴墓群
 - x 金堀横穴墓群
 - y 八千代田横穴墓群
 - z 浅間下横穴墓群

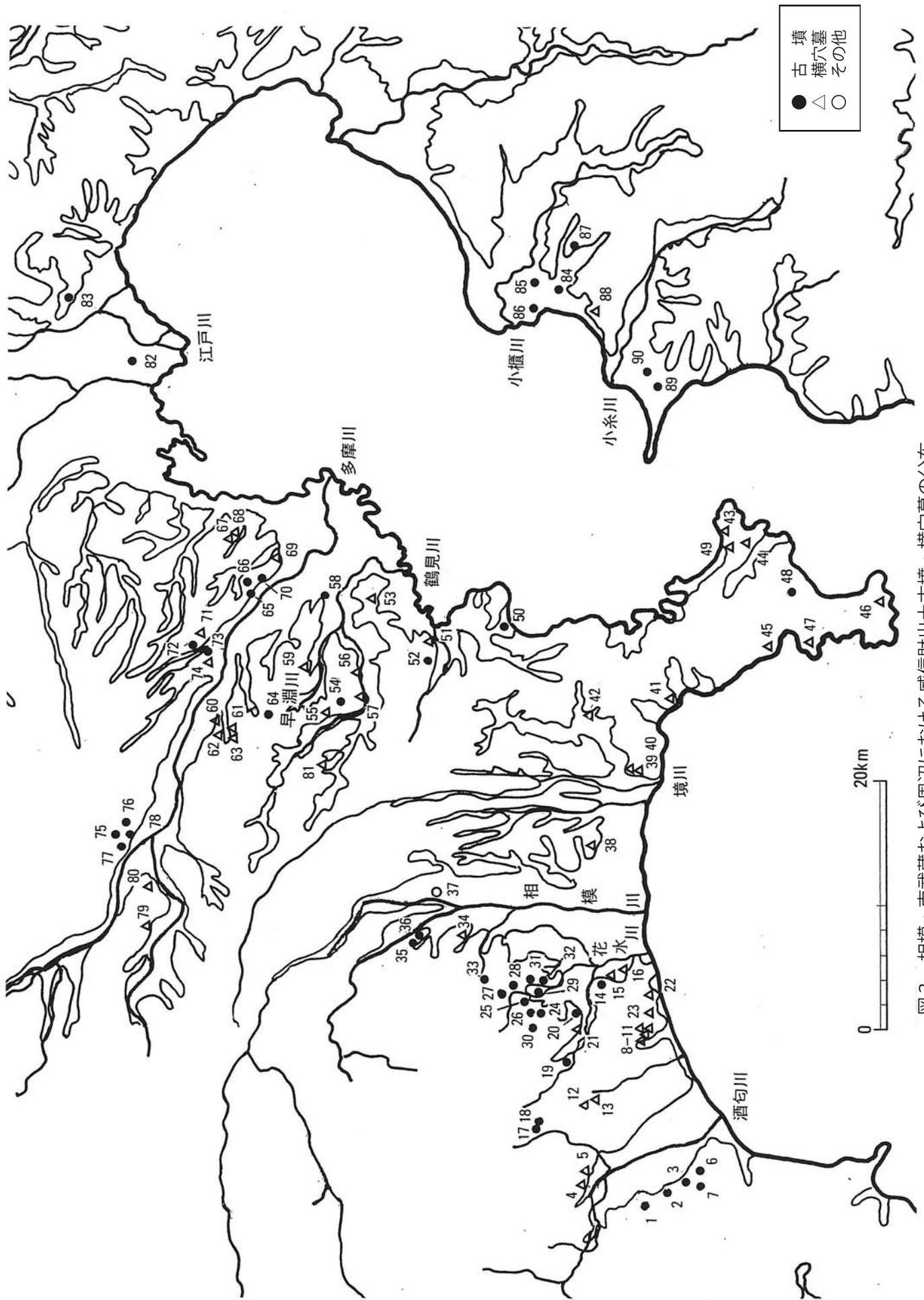
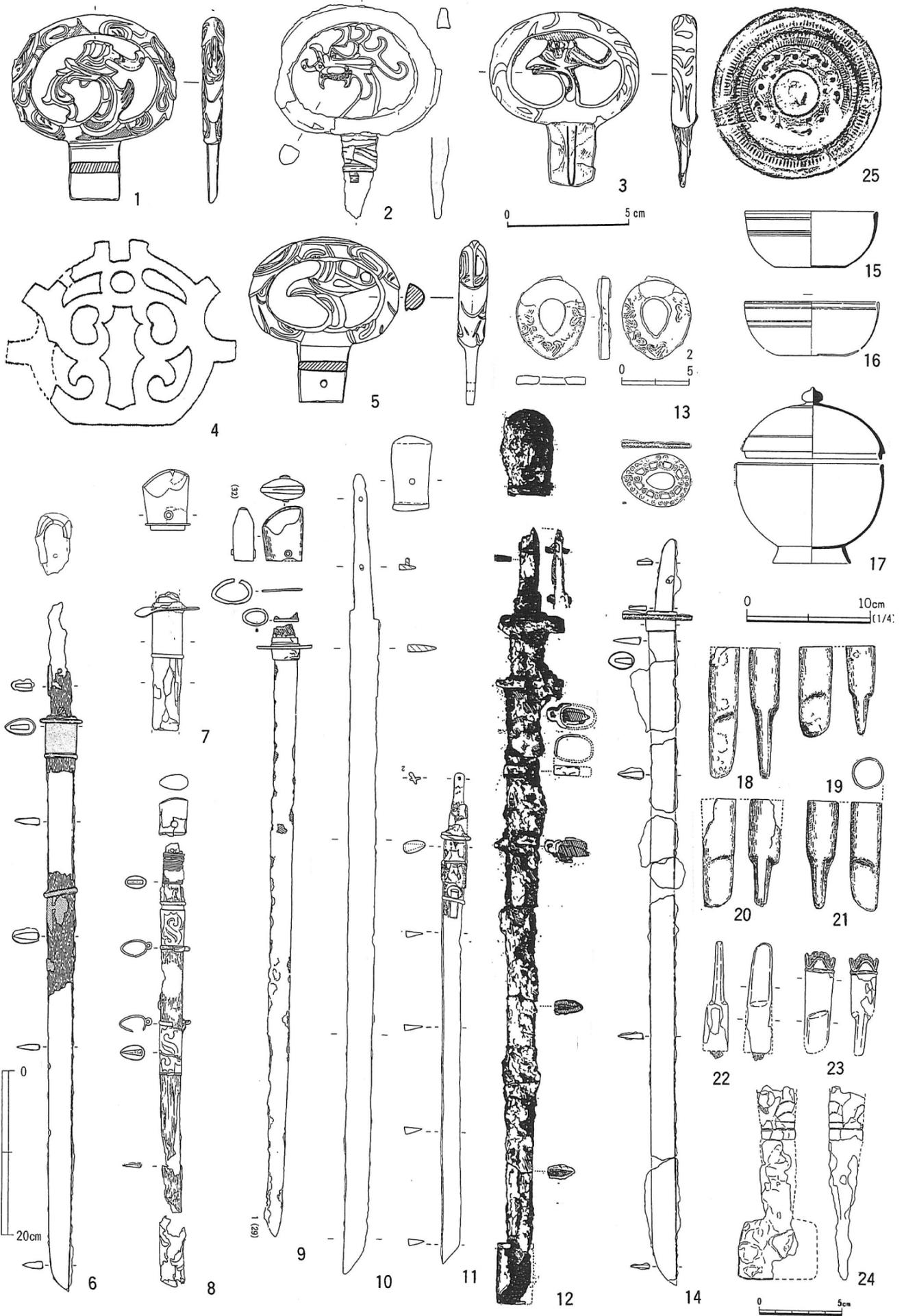
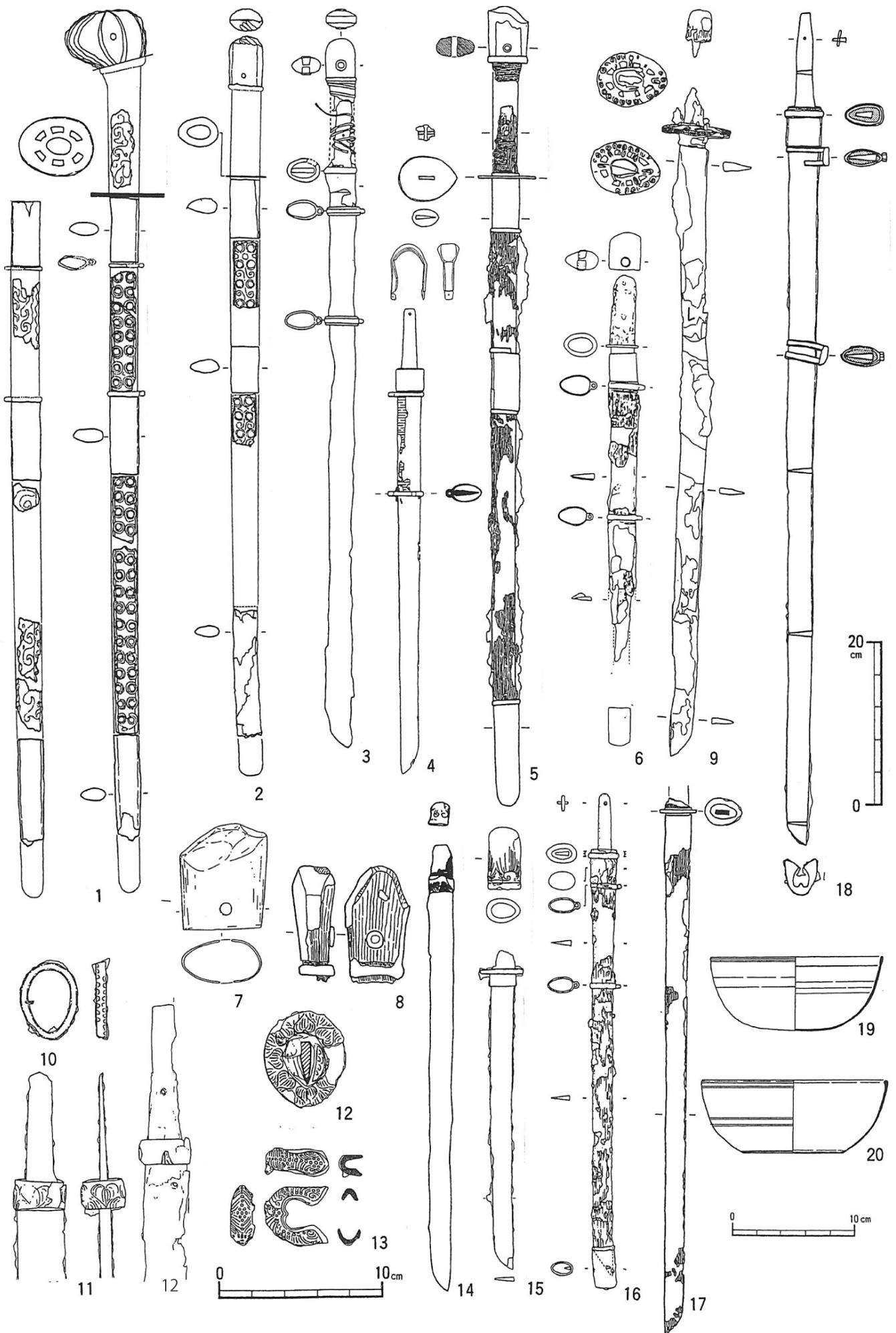


図3 相模・南武蔵および周辺における威信財出土古墳・横穴墓の分布



1. 栗原古墳 2. 黄金塚古墳 3. 塚田2号墳 4. 御領原2号墳 5. 川名新林西2号墓 6. 久野2号墳 7. 唐沢8号墓 8. 二子塚古墳
 9. 登尾山古墳 10. 比奈窪15号墓 11. 河南沢1号墓 12. 江奈2号墓 13. 桜土手25号墳 14. 久野2号墳 15. 岩井戸横穴墓群
 16. 総世寺裏古墳 17. 登尾山古墳 18~21. 江奈2号墓 22~24. かろうと山古墳 25. 登尾山古墳

図4 相模出土の装飾付大刀・銅鏡・銅鏡他



1. 塚越 14 号墓 2. 塚越 14 号墓 3. 岡本町 1 号墓 4. 御嶽塚 SZ02 古墳 5. 喜多見稻荷塚古墳 6. 東方 2 号墓 7. 西谷戸 5 号墓
 8. 間際根横穴墓群 9. 多摩川台 8 号墳 10. 四軒在家 4 号墓 11. 四軒在家 4 号墓 12. 高倉古墳群 13. 府中熊野神社古墳
 14. 久本 3 号墓 15. 久原 48 号墓 16. 梵天山横穴墓群 17. 大和田 1 号墓 18. 塚越 35 号墓 19. 浄元寺裏 1 号墓 20. 大和田 1 号墓

図 5 南武蔵出土の装飾付大刀・拵付大刀・銅銃

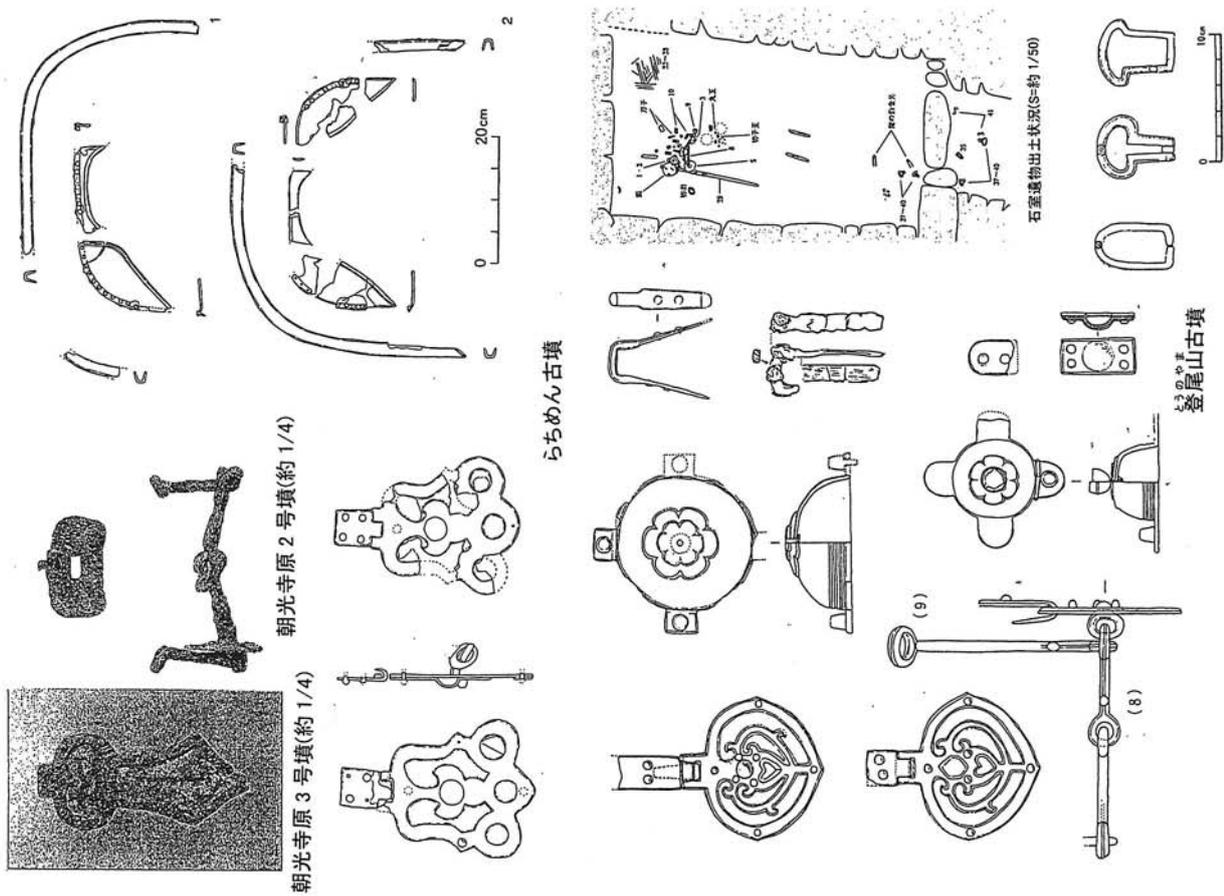


図6 神奈川県出土の馬具 (1)

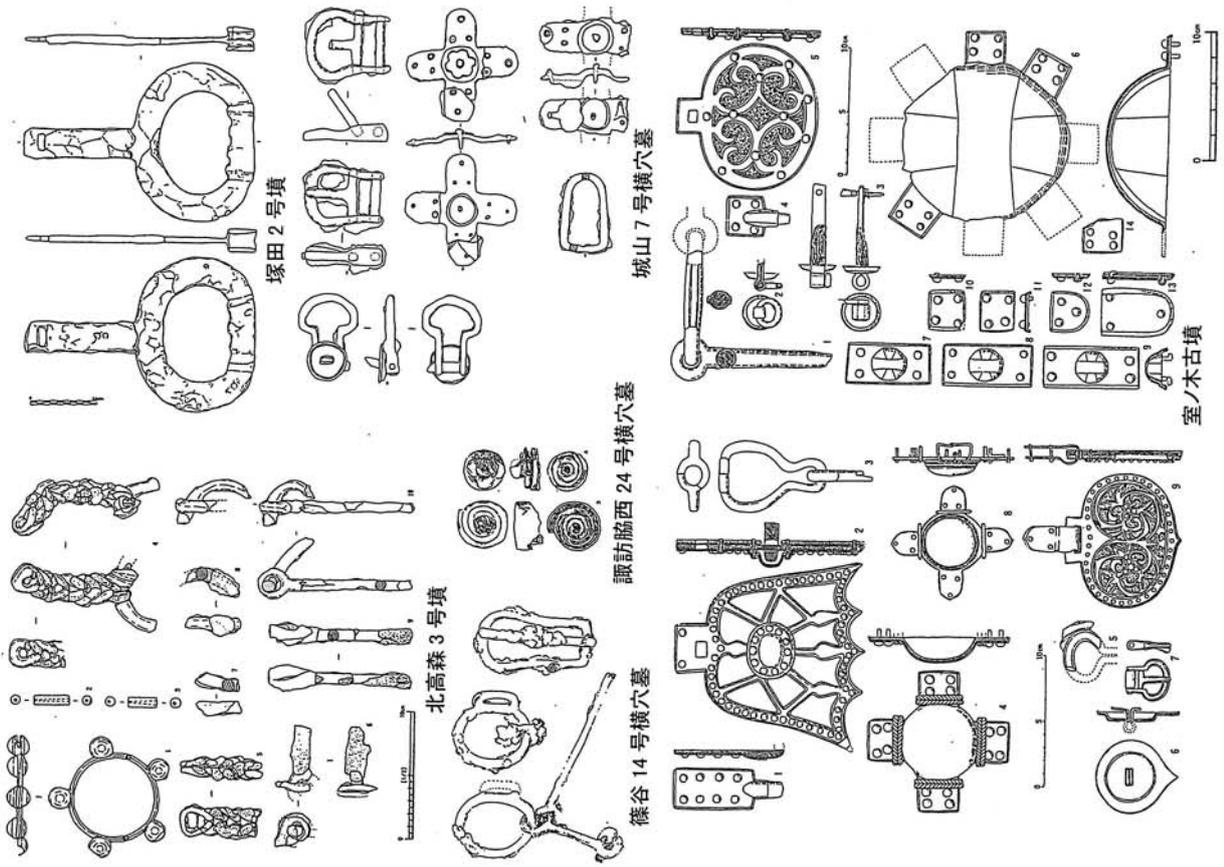


図7 神奈川県出土の馬具 (2)

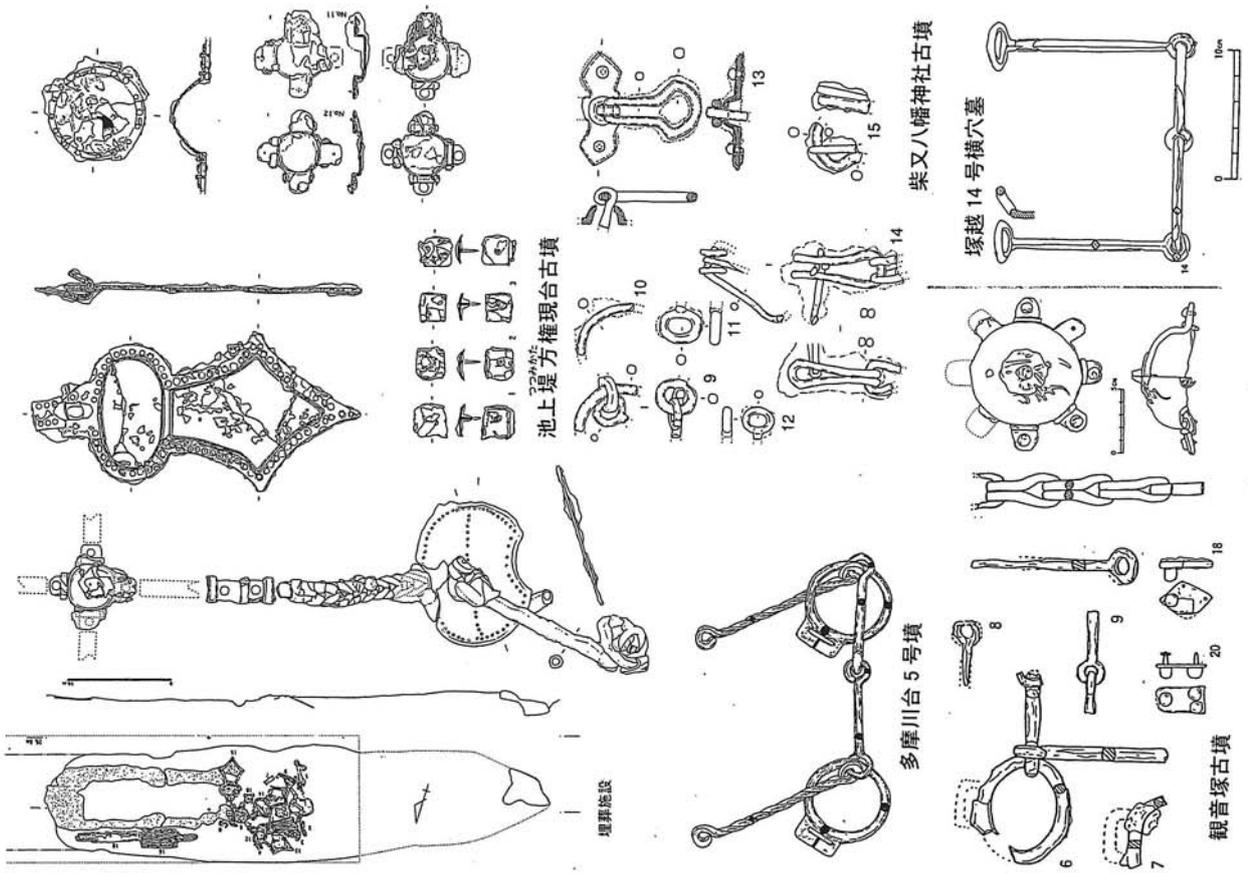


図9 東京都出土の馬具

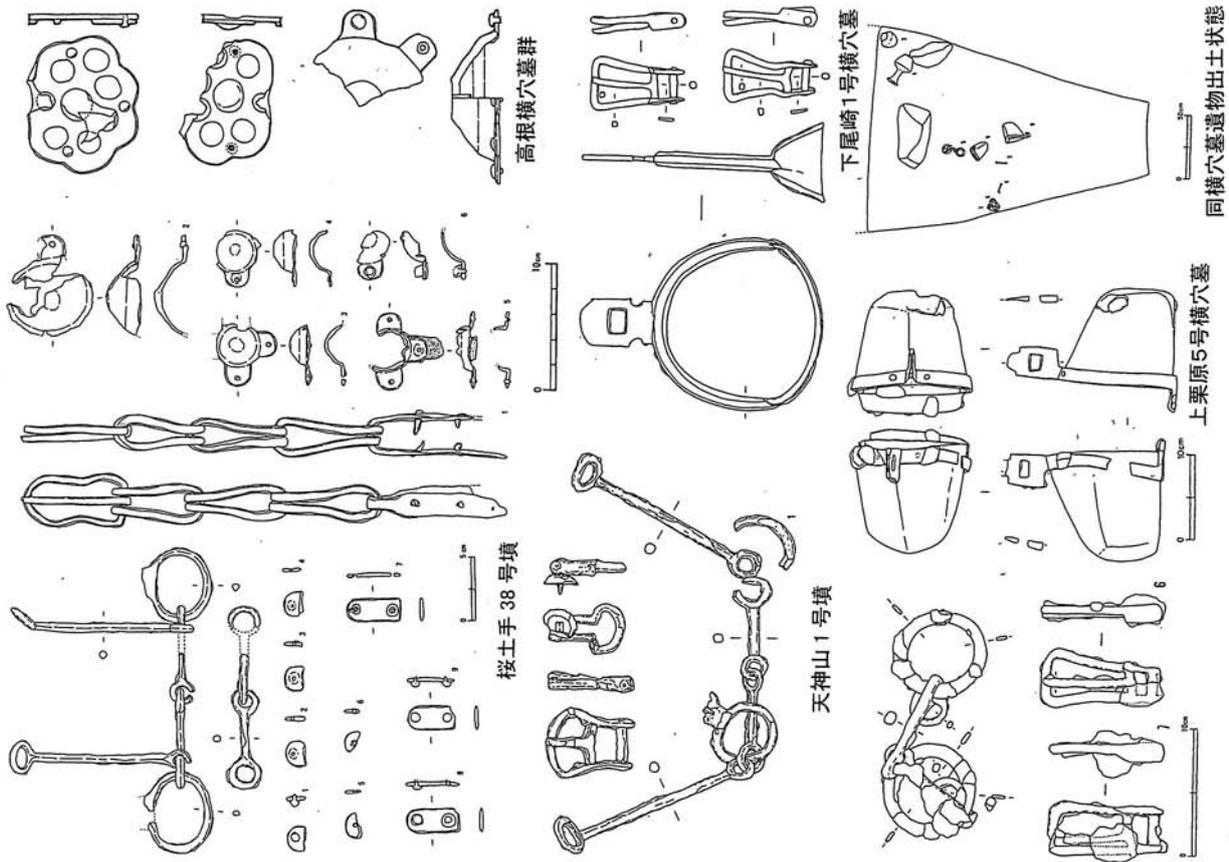


図8 神奈川県出土の馬具 (3)

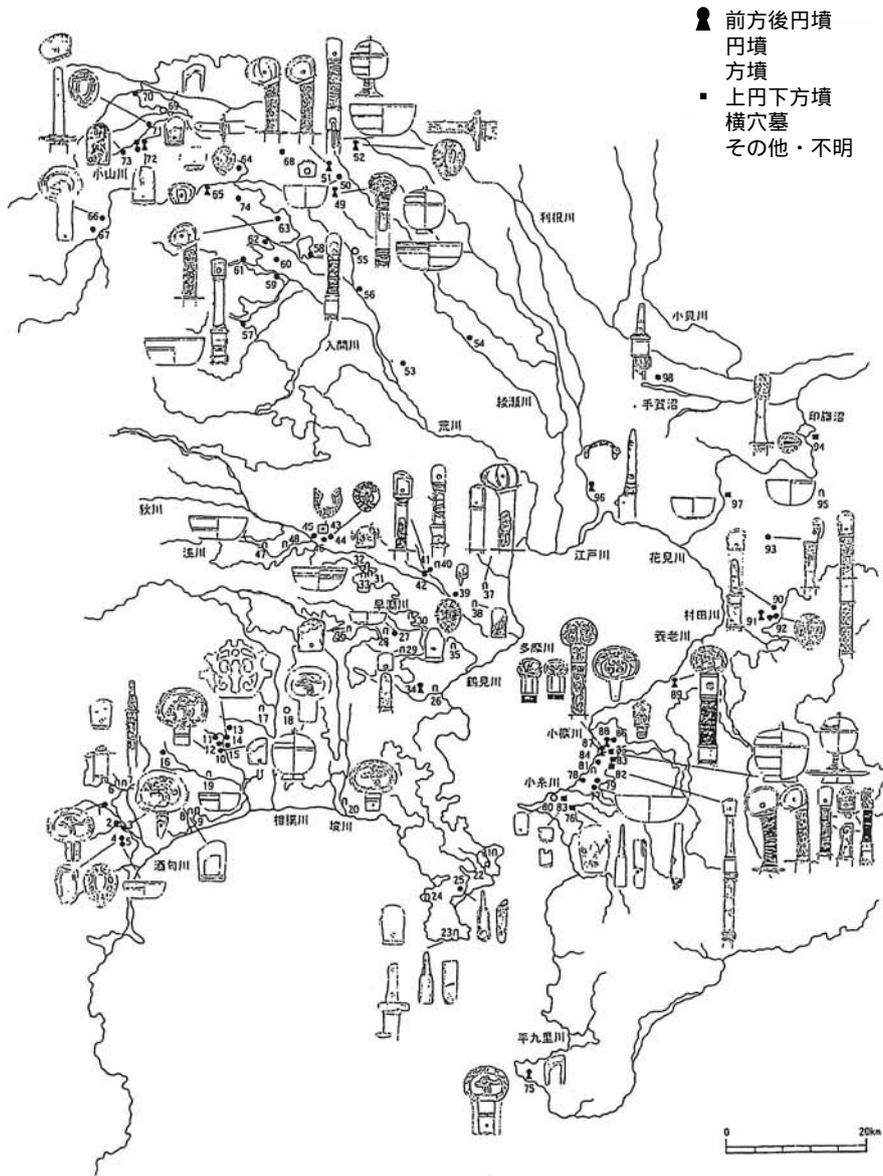


図10 南関東の威信財副葬古墳の分布

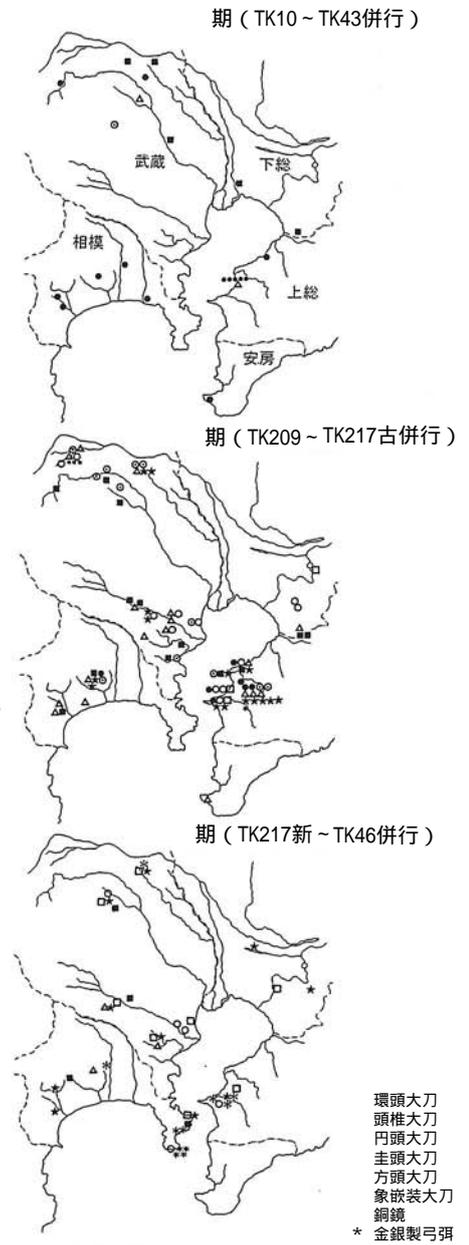


図11 威信財分布の変遷

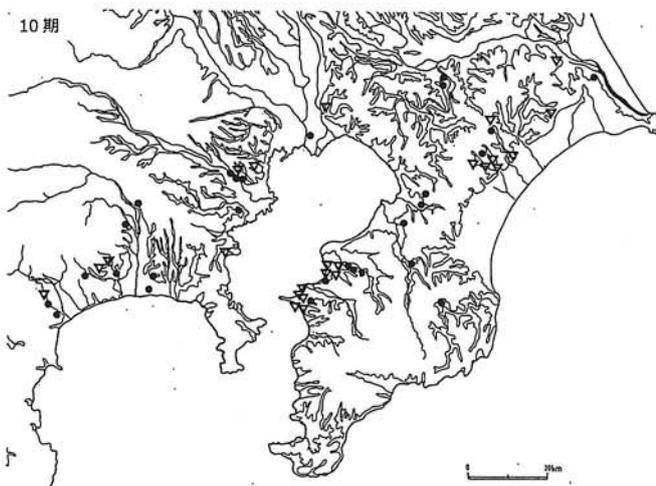


図12 馬具副葬古墳の分布 (TK43~TK209期)

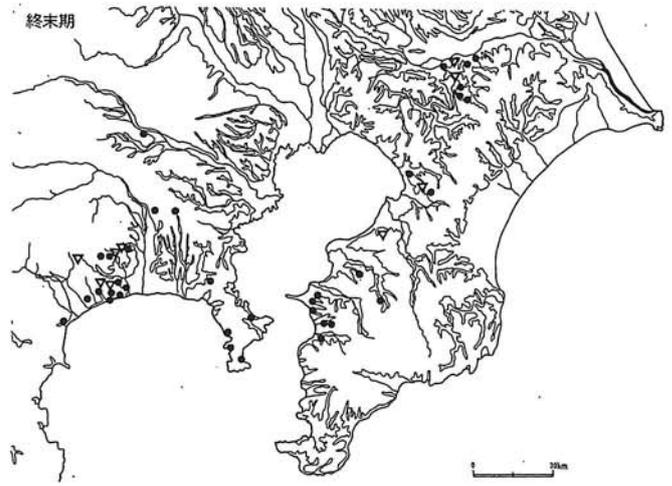


図13 馬具副葬古墳の分布 (終末期)

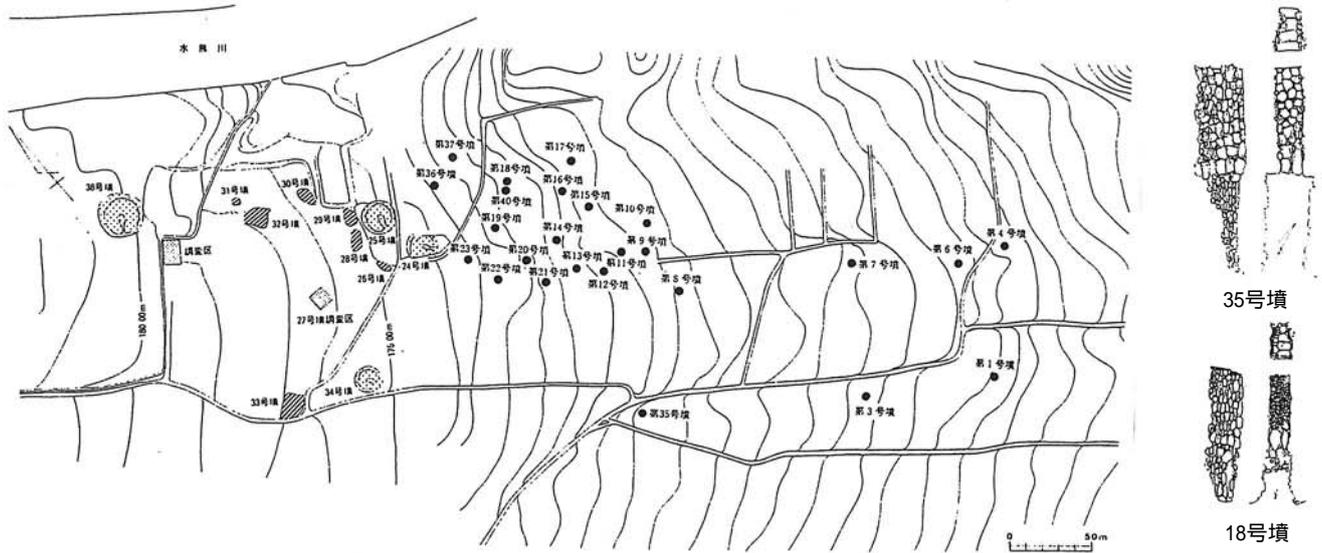


図14 秦野市桜土手古墳群と主要な石室墳の変遷 (穴戸2001より改変転載)

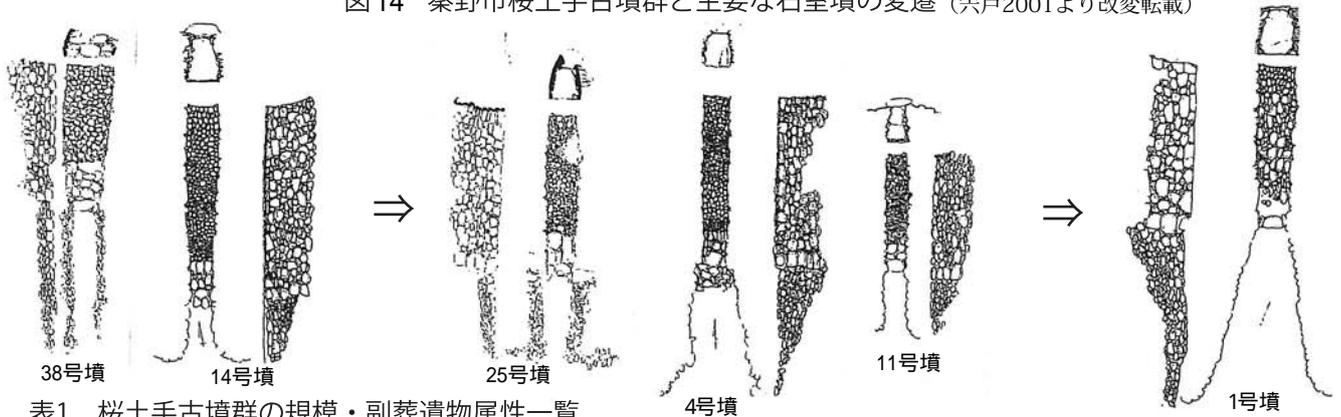
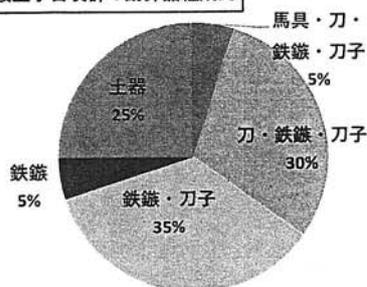


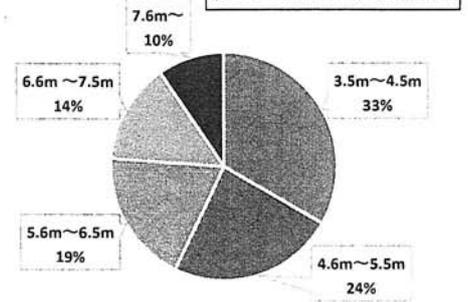
表1 桜土手古墳群の規模・副葬遺物属性一覧

古墳名	墳丘径	石室長	馬具	鉄刀	鉄鏃	刀子	他鉄器	耳環	玉類					土器			
									勾玉	管玉	切子玉	臼玉	丸玉	小玉	須恵器	土師器	
1号墳	28m	6.2m			2	2				1		2		37		4	
3号墳	14m	4.4m					釘7									●	
4号墳	20m	4.4m			1	2								4			
6号墳	19.2m	6.0m			1											1	
7号墳	13m	7.4m															2
9号墳	15m	4.8m	●		14	2		2							119	5	1
10号墳	12m	3.7m			9	3	鏃1・針2									3	
11号墳	14m	4.6m		2	12	1		2				1	1	60			
12号墳	15m	4.6m			1	1		1					7			1	
13号墳	16m	5.2m		1	38	3		4							308	7	1
14号墳	24m	7.4m		1	40	5		4	1			8	19	26	6		
16号墳	16m	6.0m			9	2					3	4	16	14	385		
17号墳	8.5m	4.3m														●	●
18号墳	9.2m	4.8m			2	3		4			5		9	40	45	1	
24号墳	15m	8.6m		2	23	3	鏃1・不明1									6	
25号墳	16m	6.2m		2	40	5		4							35		
34号墳	12.5m	3.5m														4	1
35号墳	14m	8.0m														9	
37号墳	13m	3.5m			17	2										1	
38号墳	21m	5.6m	轡・燈・雲珠・辻金具	2	21	3	3	2							247		
40号墳	7.0m	4.0m						1							6	1	1

桜土手古墳群の副葬品組成比



桜土手古墳群の石室規模割合



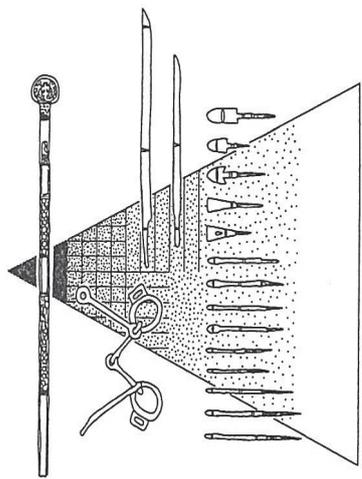


図16 武器・馬具の階層構造
(新納1992より転載)

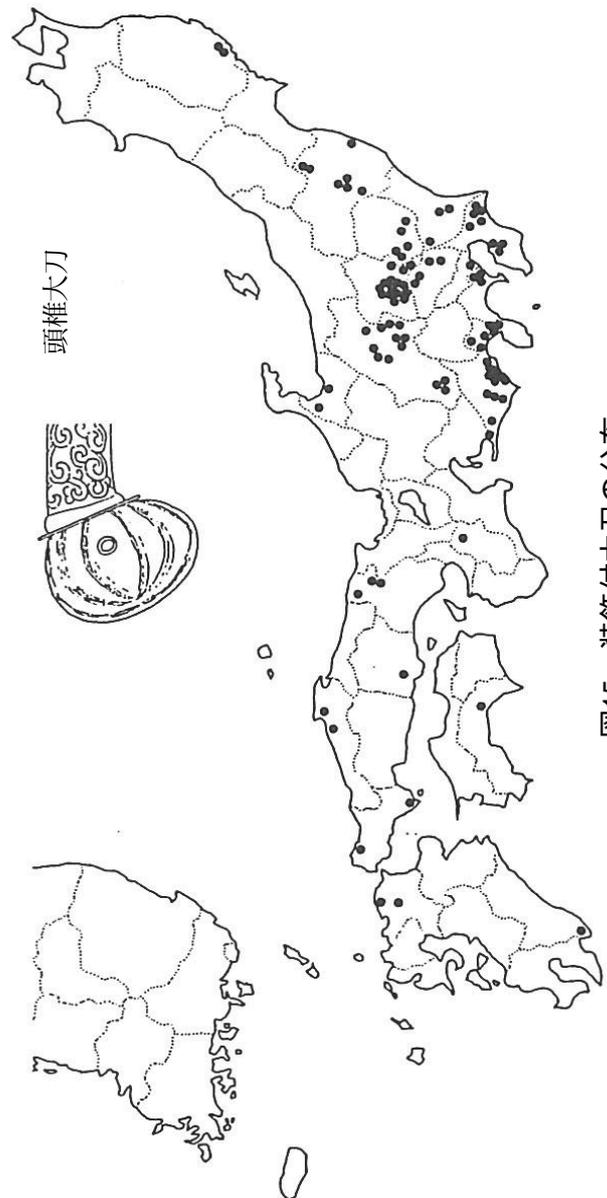
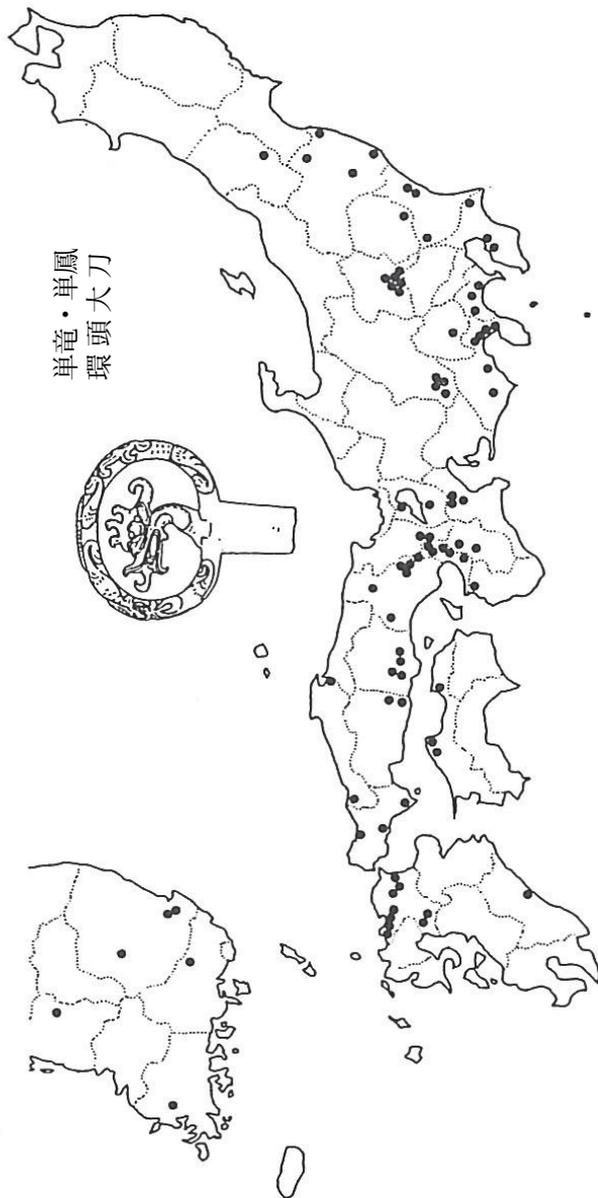
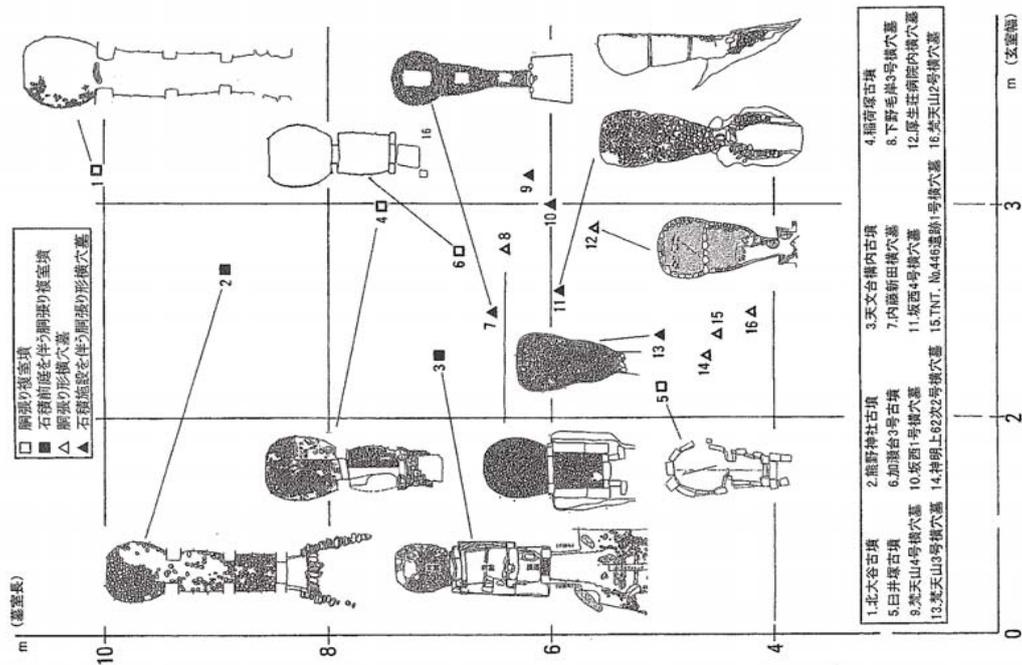
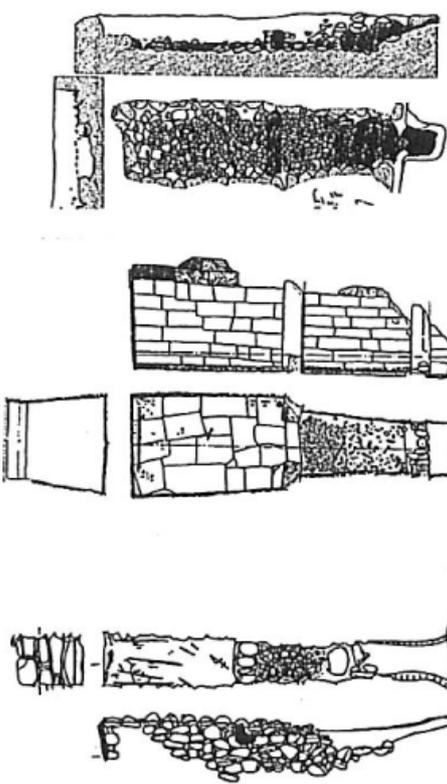


図15 裝飾付大刀の分布
(新納1983より改変転載)

表2 多摩川流域における石室の規模・規格の一覧

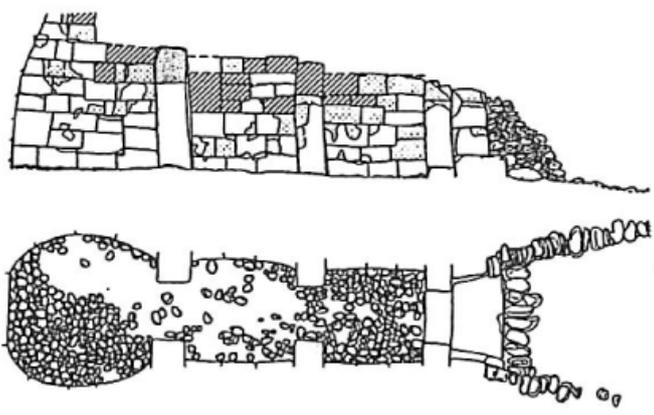
規模	玄室幅				
	2~3尺	4~5尺 (多摩川左岸)	6~7尺	8~9尺	10~11尺
23尺以上		(多摩川右岸)	▲ 狐塚古墳 ● C 天文台構内	● C 熊野神社古墳	● C 北大谷古墳 ● C 稻荷塚古墳
22 - 21尺					
20 - 19尺		▲ 鹿島古墳 ● B 四軒在家8 ● B 四軒在家4	▲ 喜多見稻荷塚		
18 - 17尺	● A 大神古墳 ● B 桜塚3号	● B 四軒在家2	● C 白井塚古墳		
16 - 15尺	● B 桜塚2号 ● A 瀬戸岡32号 ● B 白糸台5号	▲ 猪方小川塚 ● A 四軒在家3号 ● A 四軒在家9号④	● B 小宮古墳	● C 四軒在家5号 ▲ 殿山1号	
14 - 13尺	● A 道場2号 ■ 平山2号 ■ 瀬戸岡17号 ■ 万藏院台3号	● B 御嶽塚SZ02 ▲ 御嶽塚SZ01 ▲ 片多摩川台4号 ▲ 多摩川台8号 ▲ 高倉6号 ● B 高倉10号 ■ 浅間様古墳 ● A 四軒在家7号 ● B 四軒在家1号 ● B 下谷保7号	▲ 殿山2号 ● B 下谷保1号 ● B 塚原6号		● C 四軒在家6号
12尺 - 11尺	▲ 船田古墳 ● A 浄土1号	■ 御嶽塚SZ04 ● A 御嶽塚L-43 ● B 下谷保10号 ■ 下布田10号 ▲ 高倉9号			
10 - 9尺	● A 瀬戸岡30号 ■ 瀬戸岡16号 ● A 瀬戸岡22号 ■ 下谷保9号 ■ 草花古墳				
8 - 7尺	▲ 片塚原9号 ● A 御嶽塚SZ03 ● A 瀬戸岡23号 ◇ 御嶽塚SZ10	(凡例) ■ I類 無袖短冊形石室 ▲ II類 有袖矩形石室 片-片袖 ● III類 胴張り形石室 ● A 玄室主軸長:幅=1:3以上 ● B 玄室主軸長:幅=1:2前後 ● C 玄室主軸長:幅=1:1前後 ◇ IV類 小型石室			
6尺以下	◇ 瀬戸岡51号 ◇ 浄土2号 ◇ 浄土3号 ◇ 浄土4号 ◇ 浄土5号				唐大尺≒約30cm



四軒在家9号墳

喜多見稻荷塚古墳

平山2号墳



熊野神社古墳

四軒在家6号墳



浄土3号墳



図18 多摩川流域の石室形態